



福岡大学法科大学院

Institute for Legal Practice Fukuoka University

2023



Message

困難な状況にある人々に 法的な希望の道を示せる 法律家を目指して

この社会には、さまざまな困難に直面し法的な助けを必要とする人々がおられます。そうした場合に必要な存在が頼れる法律家です。

頼れる法律家になるためには様々な努力が必要です。多種多様な市民が存在する社会における多種多様な困難に対しては、一面的な対応では限界があります。さまざまな法的制度や、場合によっては法的制度を超えた人間的な方策等に関し、過去や現在の法律、過去や現在の法律学者の見解、過去の紛争事案に関する先輩法曹人の主張や、それを受けた裁判所の解決例及び現在以降の動向などを、理解し、分析し、検討し、議論し、そして、自分なりの解決策を提案する、といった努力が求められます。本法科大学院は、そうした努力を継続しようとする皆さんを全力でサポートする場所です。

本法科大学院では、皆さんに、対教員や対学生のほか、チューターやアカデミックアドバイザーをはじめとする様々な先生方を相手とする討論や質疑応答を実践して頂きます。こうした実践を続けることにより、少しずつではあっても、次第に頼れる法律家に近づくことができます。

頼れる法律家を目指した初心を維持し続けることは必ずしも容易ではないかも知れません。時には、初心から逃げ出したいくなることもあるかも知れません。そんな時は、このガイドブックを手にした時の新鮮な気持ちを思い起こしてください。本法科大学院は、そうした皆さんの新鮮な気持ちが実現するための応援を全力で継続していきます。

法科大学院長

雨宮 啓

AMEMIYA Hiroshi

Content

院長メッセージ	1
教育理念・教育方針・養成する法曹像	2
法科大学院の特色	3
法曹になるまでのプロセス	4
カリキュラム	5
司法試験在学中受験プログラム	6
長期在学履修制度	
サポート体制	7
教員紹介	9
学修環境	10
在学生の声	11
司法試験関連・合格実績	12
入試情報 学費・奨学金	13

福岡大学法科大学院では、 人間性豊かで専門性を備えた 真のプロたる法曹を育成します

社会正義を実現する法曹

人権を擁護する身近な弁護士、世の中の公正を追求する裁判官、社会正義の実現を目指す検察官など幅広い人材を養成します。

本法科大学院は、市民に信頼され、十分な法的サービスを提供できる豊かな人間性を身につけた法曹、すなわち、地域社会における身近な弁護士として、市民の人権、平穏な生活、権利利益を擁護する法曹を養成するとともに、世の中の公正を追求する裁判官、社会正義の実現を目指す検察官など幅広い人材を養成し、市民が安心して暮らせる法的環境の整備を目指しています。

社会の発展に貢献する法曹

企業、自治体、NPO など、様々な領域の社会活動を支える法曹を養成します。

地域の人々が豊かで快適な生活を実現し、尊厳ある人生を全うするためには、その基盤となる地域経済はじめ地域社会全体の発展が不可欠な条件となります。

九州・山口地域は、アジアの玄関口としての福岡を中心として、多数の優良な地場企業が優れた技術力や人的資源を背景に経済的な飛躍を遂げるに十分な基盤を形成しつつあります。

このような地域経済の基盤となる企業に対して良質な法的サービスを提供できる弁護士を養成していきたいと考えています。また、地方自治体、NPO 等の組織で活躍する組織内弁護士（インハウスローヤー）への期待が高まっています。本法科大学院は、このような期待にも応えていきたいと考えています。

地域のあらゆる法律問題に対応できる法曹

地域に根ざし、地域に通じ、幅広く人々の暮らしを支える法曹を養成します。

福岡など九州・山口地域の中心都市で活躍する法曹には、専門性の高い分野に特化して、高度な法的サービスを提供するスペシャリストとして社会に貢献していく道もあります。法学以外の専門教育を修得した人材に高度な法学教育を提供し、多様な専門知識や経験に裏付けられた新しいタイプの法曹を社会に輩出することもまた本法科大学院の使命であると考えています。

アジアと密接な関係を持つ福岡の地理的条件から、人々の交流や企業活動は国境を越えて展開しており、今後ますますこの傾向が強まっていくものと思われます。そして、これにともなって九州・山口地域という地域社会にあっても、国際的な経済活動や取引分野に実務法曹として活動の場を求めようとする人々が増加するものと予想され、これらの人々のニーズに応えることもまた本法科大学院の使命であると考えています。

福岡大学法科大学院の特色

01 一人ひとりに寄り添いきめ細かに指導する徹底した学修支援

本法科大学院は各学年20人定員で、教員と学生の距離をできるだけ縮めて、一人ひとりに寄り添いきめ細やかな個別指導を徹底する学修支援体制をとっています。

法科大学院棟内の自習室フロアのすぐ上に専任教員の研究室があるため、学修中に生じた疑問点を、直接研究室に行ってすぐさま納得のいくまで質問し、解決することができます。

また、授業以外のマンツーマン指導や自主ゼミなど、正規のカリキュラムのほかに徹底した学修支援体制も整えています。例えば、8月の「短答集中ゼミ」や2～3月の「もう一押しゼミ（論文対策）」では、教員が司法試験の受験対策支援を行っています。(P.7参照)



02 法学未修者教育の充実

入学者のほとんどが法学未修者であることが本法科大学院の特色の一つです。令和4年4月現在では、在籍者全員が未修者コースでの入学者です。創設以来の修了者も192人のうち未修者コースでの修了者は176人と、91.7%を占めています。

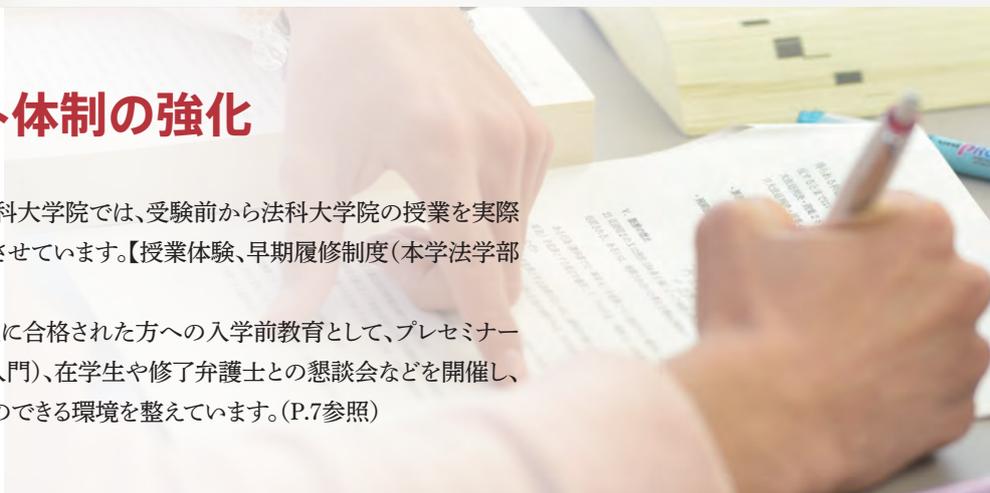
また、平成26年度に行った未修者教育に重点を置いたカリキュラム改正後の修了者(平成28～令和2年度未修者コースでの修了者:計27人)から、未修者コース修了1年目での司法試験合格者を5人輩出しています。(P.5・6参照)



03 入学前のサポート体制の強化

法学未修者の入学者が多い本法科大学院では、受験前から法科大学院の授業を実際に体験することのできる制度を充実させています。【授業体験、早期履修制度(本学法学部在学生対象)、科目等履修生制度】

また、本法科大学院の入学者選抜に合格された方への入学前教育として、プレセミナー(憲法、民法、刑法、法情報・法文書入門)、在学生や修了弁護士との懇談会などを開催し、入学後の授業にスムーズに入ることのできる環境を整えています。(P.7参照)

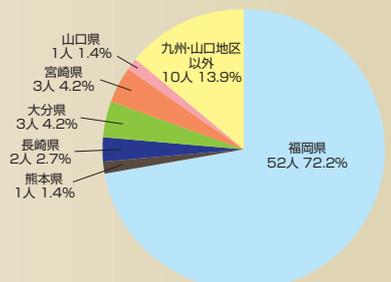


04 少人数教育の効果が現れた合格実績・地域社会に貢献する法曹の輩出

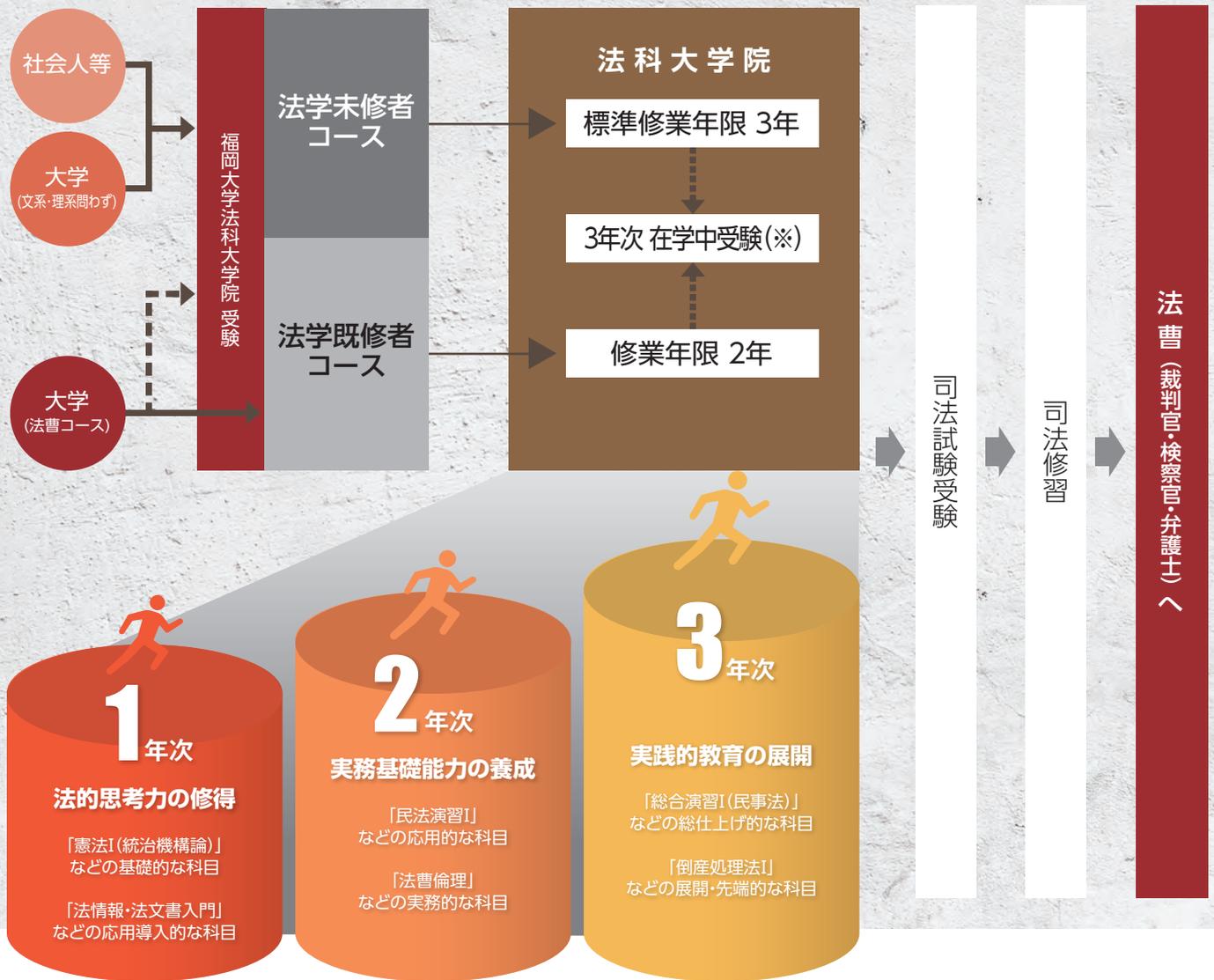
現行の司法試験は令和3年までに16回実施されています。本法科大学院からの司法試験合格者は77人を数え、累計合格率は42.08%となっており、創設以来、堅実に司法試験の合格者を輩出し続けています。

また、本法科大学院修了弁護士の九州・山口地区での登録の割合は、86.1%(令和4年4月現在)となっており、本法科大学院が教育理念に掲げる「地域に根ざし、地域に通じ、幅広く人々の暮らしを支える法曹」を着実に輩出し続けています。(P.12参照)

本法科大学院修了生 弁護士登録地域



福岡大学法科大学院から法曹へのプロセス



※「司法試験在学中受験プログラム」を履修し受験資格の要件を満たす必要があります。



法科大学院の課程を修了することにより、法務博士の学位のほか司法試験の受験資格を得ることができます。また、令和5年司法試験から、新たに、法科大学院の課程に在学する者であって、一定の要件を満たした者についても司法試験を受験できるようになります。司法試験に合格し、司法修習生として採用され、司法修習の最終試験に合格すると、裁判官、検察官、弁護士となることができます。

本法科大学院では皆さんが将来、実務法曹として活躍するうえで必要となる能力を十分に修得することができるようにカリキュラムを編成しています。

下位年次では、基本となる法的思考能力の修得をめざし、法律基本科目を中心として配置し、法の理論教育を徹底して行っています。上位年次では、専門的な実務教育を展開し、総合的な問題解決能力を養います。また、法の理論教育と実務教育では、相互の関連性に親しんでもらい、それぞれの深い理解を得ることも目指しています。

法的思考能力を効率的に修得できる、体系的なカリキュラム

本法科大学院では、少人数での授業を通じて、法の理論と法的思考能力を身につけます。
法律問題が専門化、多様化、複雑化する現代において、問題解決のあり方や技術を体得できるカリキュラムが整っています。

カリキュラム (令和4年度入学生適用)

※○は必修科目、△は選択必修科目
単位：2単位 (但し、「判例講読」、「刑事実務演習」、「ハラスメント問題の法律実務」は1単位、
「特別演習ⅠB・ⅡB・ⅢB」は4単位)

	第1年次	第2年次	第3年次
法律基本科目	基礎科目 <ul style="list-style-type: none"> ○ 憲法Ⅰ (統治機構論) ○ 憲法Ⅱ (基本的人権論) ○ 行政法Ⅰ (行政過程論) ○ 民法Ⅰ (総則) ○ 民法Ⅱ (物権法) ○ 民法Ⅲ (担保物権法) ○ 民法Ⅳ (債権総論) ○ 民法Ⅴ (契約法) ○ 民法Ⅵ (不法行為法) ○ 民法Ⅶ (家族法) ○ 民事訴訟法Ⅰ ○ 刑法Ⅰ (総論) ○ 刑法Ⅱ (総論・各論) ○ 刑法Ⅲ (各論) 	基礎科目 <ul style="list-style-type: none"> ○ 行政法Ⅱ (行政救済論) ○ 商法 ○ 会社法Ⅰ (企業統治) ○ 会社法Ⅱ (企業金融) ○ 民事訴訟法Ⅱ ○ 民事訴訟法Ⅲ ○ 刑事訴訟法Ⅰ ○ 刑事訴訟法Ⅱ 	応用科目 <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合演習Ⅰ (民事法) ☆ ○ 総合演習Ⅱ (公法) ☆ ○ 総合演習Ⅲ (刑事法) ☆ 憲法演習Ⅱ 行政法演習Ⅱ 商法演習Ⅱ 刑事訴訟法演習
	応用科目 <ul style="list-style-type: none"> 憲法演習Ⅰ 民法演習Ⅳ 刑法演習 	応用科目 <ul style="list-style-type: none"> ○ 民法演習Ⅰ ○ 民法演習Ⅱ ○ 民法演習Ⅲ 行政法演習Ⅰ 民事訴訟法演習 商法演習Ⅰ 	
法律実務基礎科目	法情報・法文書入門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法曹倫理 ○ 民事実務基礎論 ◇ ○ 刑事実務基礎論 ◇ ○ 刑事実務演習 ◇ 要件事実論 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民事実務演習 家事事件処理手続論 民事紛争処理手続論 企業法務論 リーガル・クリニック リーガル・コミュニケーション演習 エクスターンシップ
基礎法学 隣接科目	紛争処理の法理論 法と行政	法と企業会計 アジア法制度論	法と情報 外国文献講読
		法と医学	
	法科大学院連携科目 (2・3年次) 協定に基づいて、福岡県弁護士会が派遣した講師が他法科大学院で行う科目を受講することができます。 ▶九州大学 倒産法実務 / ジェンダーと法 / 高齢者・障害者問題	展開・先端科目 △ 倒産処理法Ⅰ / △ 倒産処理法Ⅱ / △ 国際私法Ⅰ / △ 国際私法Ⅱ / △ 国際公法 / △ 経済法 / △ 環境法 / △ 労働法 / △ 労働法演習Ⅰ / △ 労働法演習Ⅱ / △ 租税法 / △ 知的財産法 / 民事執行・保全法 / 民事執行・保全の実務 / 医療福祉と人権 / 環境訴訟の実務 / 保険法 / 交通事故賠償論 / 自治体法務論 / 社会保障法 / 刑事弁護論 / 実務刑罰論 / 子どもの権利 / 都市法 / 銀行取引と法 / 消費者法 / ハラスメント問題の法律実務 / 展開・先端系演習Ⅰ / 展開・先端系演習Ⅱ / 展開・先端系演習Ⅲ / 特別演習ⅠA / 特別演習ⅠB / 特別演習ⅡA / 特別演習ⅡB / 特別演習ⅢA / 特別演習ⅢB	

- 修了要件 ・標準修業年限は3年です。ただし、法学既修者は2年で修了できます。
 ・98単位以上 (法律本科目群から必修科目56単位及び応用科目の選択科目6単位以上。法律実務基礎科目群から必修科目9単位及び選択科目2単位以上。基礎法学・隣接科目群から選択科目4単位以上。展開・先端科目群から選択必修科目4単位を含む12単位以上。その他の選択必修科目及び選択科目から9単位以上) を修得すれば、法務博士 (専門職) の学位が授与されます。



司法試験在学中受験プログラム

司法試験を受験するためには、従来、法科大学院の課程の修了又は司法試験予備試験の合格が必要でしたが、法曹資格取得までの時間的・経済的負担の軽減を図るため令和5年司法試験から、新たに、法科大学院の在学学生であって、一定の要件を満たした学生については、在学中に司法試験を受験できるようになります。

本法科大学院でも、未修者及び既修者が在学中受験にチャレンジできるように、「司法試験在学中受験プログラム」を設けています。

■ 選抜方法

未修者コースは1年次後期成績発表後、既修者コースは入学者選抜に合格後、申し込みを受け付け選抜します。
2年次に優秀な成績で単位を修得する見込みがあることが選抜要件です。

■ カリキュラム

通常課程のカリキュラムと異なる点は以下のとおりです。

- ・2年次修了までに修得すべき要件を満たすため、P.5記載のカリキュラム表中の「☆」の科目を2年次に履修し、「◇」の科目を3年次に履修
- ・2年次までに、法律基本科目・応用科目の選択科目から6単位以上履修
- ・2年次にP.5記載のカリキュラム表中の「△」の科目から4単位以上履修

■ 在学中受験資格要件

次の(1)～(3)を全て満たさなければ在学中に司法試験を受験することができません。

- (1) 法律基本科目・基礎科目につき30単位以上
- (2) 法律基本科目・応用科目につき18単位以上
- (3) 展開・先端科目・選択必修科目(司法試験における選択科目)8科目の中から4単位以上

■ 修了要件

通常課程と同様です。

長期在学履修制度(昼間または夜間開講)

本法科大学院では、入学時に就業している、または入学後に就業する等の理由により、標準修業年限の3年間を超えた履修計画を有する方について、5年間での課程修了を認める長期在学履修制度を設けています。

長期在学履修制度は、未修者コース(標準修業年限:3年間で課程修了)のみ適用されます。

履修の申し出等の詳細は、令和5年度学生募集要項にて必ずご確認ください。

なお、出願前に制度の説明を希望される場合は、ご相談ください。

■ 履修

未修者コースの授業科目を5年間で履修することによって、所定の98単位以上を修得し課程を修了することができます。

入学前の所定の期日までに履修計画書等を提出することにより、昼間または夜間での履修を決定します。

■ 学費

学費等は3年間分を5年間で納入していただきます。

■ 夜間コース

本法科大学院では、地域社会で活躍されている社会人の方々に対して法曹へのチャンスを提供する観点から、全国でも数少ない夜間コースを設けています。

夜間コースでは、長期在学履修制度を利用して夜間(月～金曜日の6時限・7時限)に開講の授業科目を5年間で履修することによって、所定の98単位以上を修得し課程を修了することができます。

入学前のサポート

法科大学院進学を考えている方へ

▶授業体験

実際の授業を受講し法科大学院の雰囲気を体験できます。
主に1年次生が受講する授業への参加となります。
施設見学や進学説明のご希望も受け付けています。

▶早期履修制度

本学法学部在学中に法科大学院の授業科目を履修できます。

▶科目等履修生制度

法科大学院の受験資格を有する方が法科大学院の授業科目を履修できます。



法科大学院入学予定の方へ

▶入学予定者ガイダンス/OB・OGとの交流会

入学後の学修や生活をイメージしやすくするために、入学後の学修について説明を行うガイダンス、弁護士等として活躍する修了生との交流会を開催しています。

▶プレセミナー

特に法学未修者が法律になじみ、4月からの本格的な勉学に弾みをつけてもらうことを目的として、「憲法」「民法」「刑法」「法情報・法文書入門」のプレセミナーを実施しています。

学修方法などに関する具体的なアドバイスを受けることもできます。

▶授業への参加

入学予定者の方を対象に、法的思考力を身に付けることを目的として、法科大学院1年次生と一緒に実際の法科大学院の授業に参加する機会を設けています。

▶担任制

入学前から担任制を導入しています。

学修上の相談ができるように、専任教員が一人ひとりをサポートします。

▶学修環境の利用

入学前から、在学生と同様の学修環境(自習室など)を利用し授業開始に向けての十分な準備をすることができます。

教育支援システムを利用して、判例を検索したり、システム内の「基礎力確認テスト」を受けて、理解度を確認したりすることにより、入学後の授業にスムーズに入れます。

在学中のサポート

▶担任制・個別面談

担任制をとり、個別面談を行うなど学生一人ひとりの学修・生活面を担当がサポートします。

小テスト成績等の情報を集約した「学生カード」によって、各学生の学力状況や問題点などを適切に把握し個別指導を行います。

▶チューター制度

本法科大学院出身の若手弁護士が、履修上の悩みや学修方法の相談、各科目の具体的な質問に至るまで、幅広くきめ細やかに支援します。

令和4年度
チューター

▶前田 恭輔 弁護士 ▶神崎 達範 弁護士

▶アカデミック・アドバイザー

豊富な実務経験を有する弁護士が、法律基本科目の重要ポイントを押さえたゼミを開講して学修を支援し、基本科目の一層の理解を図ります。

令和4年度
アカデミック・
アドバイザー

▶佐野 俊明 弁護士 ▶岸野 慎司 弁護士
▶柴尾 知宏 弁護士 ▶中谷 正太 弁護士

▶司法試験受験対策講座

8月の「司法試験体験受験会」や「短答集中ゼミ」、さらに2～3月の「もう一押しゼミ(論文対策)」で、教員による徹底した司法試験受験対策支援を行います。司法試験に合格した修了生からは、司法試験合格につながったという感想がよく聞かれます。

▶模擬試験受験料補助

経済面での負担を軽減し、模擬試験を受験する機会を増やすために、「TKC全国統一模試」などの模擬試験の受験料の一部補助を行っています。





修了後のサポート

▶法曹を目指す方

法務研修生制度

本法科大学院修了者を対象に、「法務研修生」制度を設けています。

司法試験に向けて、受験準備期間中も、学内施設の利用やチューターによる個別指導、アカデミック・アドバイザーによる学修支援、司法試験受験対策講座、模擬試験受験料補助などについては在学中と同様の環境が保障され、安心して勉強に集中できる体制をとっています。

また、修了後も継続的なサポートを行うため、担任制を導入しています。

司法試験合格後の就職支援

本法科大学院を修了した弁護士による「就職活動説明会」、社会人になった時に役立つ内容を盛り込んだ「就職活動マナー講座」を開催しています。

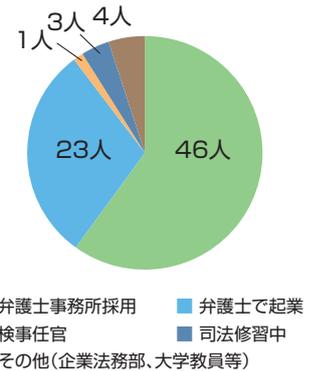
▶法曹以外の進路を目指す方

法曹以外の進路(公務員・民間企業法務部等)など多様な進路選択を支援

本法科大学院修了者向けに、九州・山口地区の企業の説明会実施に取り組んでいます。

また、企業などからの求人情報を随時発信し、進路指導担当教員による個別相談が受けられる体制を整えています。

司法試験合格者進路先(77人)



時間割

法学未修者コース 1年次生(例)

※は必修科目

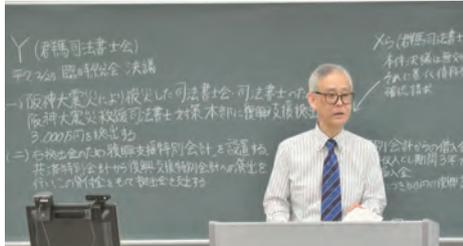
時限	時間	期別	月	火	水	木	金
1限目	9:00~10:30	前期	※憲法Ⅱ(基本的人権論)	※民法Ⅱ(物権法)		※刑法Ⅰ(総論)	
		後期	※憲法Ⅰ(統治機構論)		※民法Ⅲ(担保物権法)		
2限目	10:40~12:10	前期	憲法演習Ⅰ		※民法Ⅳ(債権総論)		※民法Ⅶ(家族法)
		後期		※行政法Ⅰ(行政過程論)		※民事訴訟法Ⅰ	
3限目	13:00~14:30	前期	※民法Ⅰ(総則)	裁判制度概論		刑事訴訟法入門	
		後期	※刑法Ⅲ(各論)	※刑法Ⅱ(総論・各論)		※民法Ⅵ(不法行為法)	法と企業会計
4限目	14:40~16:10	前期		アジア法制度論		民法演習Ⅳ	
		後期		法律基本演習			
5限目	16:20~17:50	前期					法情報・法文書入門
		後期	法と医学			法と情報	※民法Ⅴ(契約法)
6限目	18:30~20:00	前期					
		後期					





教員紹介 (令和4年4月1日現在)

福岡大学法科大学院は、12人の専任教員が中心となり、16人の学内非常勤講師(兼任)及び18人の学外非常勤講師(兼任)とともに実践的な教育指導にあたっています。その構成は、教育能力に優れた研究者教員に加え、実務家教員として経験豊かな元裁判官、元検察官、弁護士など多彩な陣容となっています。



専任 12人 (うち実務家教員5人)

青木 亮 AOKI Makoto
教授

弁護士・元判事
民事訴訟実務

新屋 達之 SHINYA Tatsuyuki
教授

法学修士
刑事訴訟法

山下 義昭 YAMASHITA Yoshiaki
教授

法学修士
行政法

雨宮 啓 AMEMIYA Hiroshi
教授

弁護士
民事法、銀行法務

平江 徳子 HIRAE Tokuko
教授

弁護士、元検事
刑事法実務

井上 能孝 INOUE Yoshitaka
准教授

経済学修士
商法

石松 勉 ISHIMATSU Tsutomu
教授

法学修士
民法

三隅 珠代 MISUMI Tamayo
教授

弁護士
刑事法実務、民事法実務

大庭 沙織 OBA Saori
准教授

修士(法学)
刑法

木村 道也 KIMURA Michiya
教授

弁護士
刑事法実務、民事訴訟実務

村上 英明 MURAKAMI Hideaki
教授

博士(法学)
憲法、地方自治法

藤村 賢訓 FUJIMURA Masanori
准教授

修士(法学)
民法

兼任 16人 (学内非常勤講師)

屋宮 憲夫 OKUMIYA Norio
教授

福岡大学法学部

李 黎明 LI Leimei
教授

福岡大学法学部

白石 武史 SHIRAIISHI Takeshi
教授

福岡大学病院臓器移植医療センター

芳賀 真一 HAGA Shinichi
准教授

福岡大学法学部

小野寺 一浩 ONODERA Kazuhiro
教授

福岡大学法学部

奥村 勝 OKUMURA Masaru
教授

福岡大学情報基盤センター

永光 信一郎 NAGAMITSU Shinichiro
教授

福岡大学医学部

吉村 力 YOSHIMURA Chikara
准教授

福岡大学医学部

北坂 尚洋 KITASAKA Naohiro
教授

福岡大学法学部

久保 真一 KUBO Shinichi
教授

福岡大学医学部

野田 慶太 NODA Keita
教授

福岡大学病院臨床研究センター

四元 房典 YOTSUMOTO Fusanori
准教授

福岡大学医学部

下田 大介 SHIMODA Daisuke
教授

福岡大学法学部

小玉 正太 KODAMA Syota
教授

福岡大学医学部

和田 秀一 WADA Hideichi
教授

福岡大学医学部

中村 伸理子 NAKAMURA Noriko
講師・弁護士

福岡大学病院医療安全管理部

兼任 18人 (学外非常勤講師)

石田 光史 ISHIDA Koji
弁護士

佐古田 彰 SAKOTA Akira
西南学院大学
法学部 教授

林 秀文 HAYASHI Hidefumi
公証人 元判事

稲場 悠介 INABA Yusuke
弁護士

佐野 俊明 SANNO Toshiaki
弁護士

原島 良成 HARASHIMA Yoshinari
熊本大学大学院
人文社会科学部
准教授

宇加治 恭子 UKAJI Kyoko
弁護士

佐野 誠 SANNO Makoto

平野 互 HIRANO Wataru

木村 元昭 KIMURA Motoaki
弁護士

瀧本 直 TAKIMOTO Tadashi
弁護士

茂木 康俊 MOTEGI Yasutoshi
広島大学大学院
人間社会科学部
准教授

久保井 撰 KUBOI Setsu
弁護士

谷川 和幸 TANIKAWA Kazuyuki
関西学院大学
法学部 准教授

山口 幸雄 YAMAGUCHI Yukio
弁護士 元判事

後藤 富和 GOTO Tomikazu
弁護士

知名 健太郎定信 CHINA Kentarouadanobu
弁護士

吉田 晋 YOSHIDA Shin
医師

学修環境

法科大学院の授業は、法科大学院棟内で行われます。

棟内には、講義室、演習室、研究室のほか、自習室、模擬法廷教室、コンピュータラボ室、指導室などがあり、快適な学修環境が保たれています。また、無線LAN(Wi-Fi)が利用可能な環境も整備されており、各種の法律関連の電子資料が学内ネットワークを通して棟内から利用できます。

施設・設備

講義室・演習室 5F・6F

授業や教科指導に使用します。また、演習室はアカデミック・アドバイザーによる指導の際も使用します。

コンピュータラボ室 5F

法科大学院LANで結ばれた計10台のパソコンその他のOA機器が配備された施設です。

オープン利用の施設として情報検索、文書やプレゼンテーション資料の作成などに自由に利用できます。

自習室(164席) 3F

入退室管理システムを備えた、本法科大学院生であれば自由に利用できる施設です。(図書・資料を備えています)

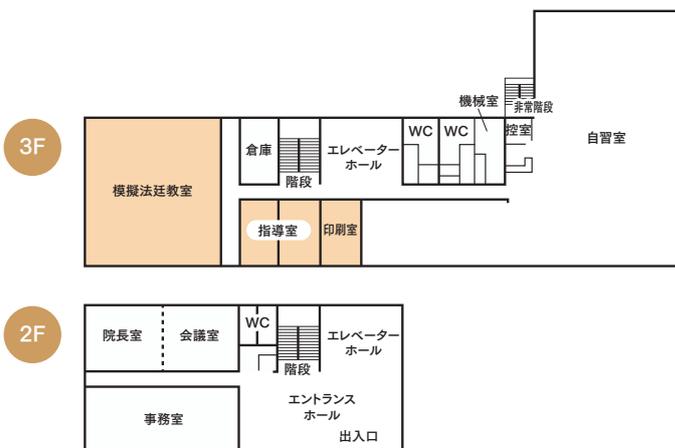
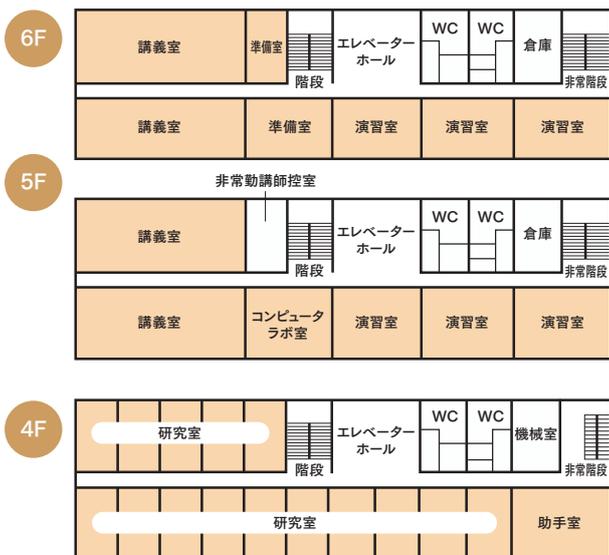
広いスペースの中で、落ち着いて学習することができます。

模擬法廷教室 3F

実際の法廷を再現した教室です。「民事実務演習」「刑事実務演習」では、この模擬法廷教室で模擬裁判を行うなど、実務を強く意識した教育を行っています。

指導室 3F

学生に対する個別的な学修指導等を行います。



模擬法廷教室



コンピュータラボ室



自習室

関連施設

大学内の図書館、学生食堂、健康管理センター、ヒューマン・ディベロップメントセンター等の施設を利用できます。



福岡リーガルクリニック法律事務所

学内の学生・教職員のみならず一般の方にも広く法的サービスを提供する目的で、平成22年に設立された大学キャンパス内の法律事務所です。

また、本法科大学院における臨床法学教育の支援、本法科大学院出身弁護士の実務能力養成の支援等の機能も担っており、法科大学院を医学部に例えるならば、大学病院的な存在です。

在学生の声

voice

相良 真悟

SAGARA Shingo

法学未修者コース3年次生

■出身大学・学部

西南学院大学・経済学部

社会人経験あり

私は法学未修者ということもあり、法科大学院での授業についていけるかとても不安でした。しかし、本法科大学院には、法学未修者向けの講義や教科指導がいくつか開講されており、これらを受講することによって、法学未修者であることの不安はすぐに解消されました。また、本法科大学院では、法学未修者向けの教科指導だけでなく、より試験対策向けの教科指導やゼミも開講されています。

このように、法学未修者向けの講義から試験対策まで、幅広くサポートしていただけることが本法科大学院の魅力だと感じています。

私の1日のスケジュール

8:00	起床、朝食、登校
9:30	自習(予習)
10:40	授業(民法演習)
12:10	昼休み
13:00	自習(民事訴訟法の予習)
16:20	授業(法と医学)
19:00	帰宅・夕食
20:30	自習(ゼミの答案作成・復習など)
1:00	休憩、入浴、就寝



voice

荒瀬 明夏

ARASE Sayaka

法学未修者コース2年次生

■出身大学・学部

ジャワハール・ネルー大学大学院
芸術学部

社会人経験あり

私は純粹未修者として入学し、当初は法律の専門的な文体、文章や法解釈に慣れることに苦労しました。法科大学院での生活は、生活習慣を見直し、とにかく勉強時間を増やす努力が必要です。本法科大学院は少人数制で、先生方からきめ細かな指導とリアルなアドバイスを受けることができ、司法試験に向けてモチベーションを維持しながら計画的に勉強することができます。また強化対策として教科指導やアカデミックアドバイザーによるゼミが開講されており、純粹未修者でも短期間で基礎知識を習得できる環境が整っています。

私の1日のスケジュール

6:30	起床・朝食・登校
9:00	授業(憲法)
10:40	教科指導(憲法)
11:40	昼食・自習(憲法の復習・刑法の予習)
14:40	授業(刑法)
16:20	授業(法と医学)
18:10	帰宅・夕食・休憩・入浴
19:30	自習(刑法の予習・法律基礎演習の予習)
1:00	休憩・就寝



voice

比嘉 結衣

HIGA Yui

法学未修者コース2年次生

■出身大学・学部

福岡大学・法学部

社会人経験なし

本法科大学院では、授業のほかに各科目の教科指導が開講されています。先生それぞれに特色があり、判例の深掘りや答案作成などを通し、授業や自習の際に身につけた知識をアウトプットすることで、答案上での知識の使い方を習得することができます。

また、一学生につき一人担任の先生がつき、勉強や生活面で不安がある際に相談がしやすいのも本法科大学院の魅力の一つだと思います。

私の1日のスケジュール

6:30	起床、朝食、準備
8:45	登校
9:00	授業(憲法)
10:40	自習(刑法の予習)
12:10	昼休み
13:00	自習(刑法の予習、短答対策)
14:40	授業(刑法)
16:20	授業(法と医学)
18:00	帰宅、夕飯
19:00	問題演習
21:00	運動、入浴
22:00	判例を読む
23:30	就寝



voice

谷川 知華子

TANIGAWA Chikako

長期在学履修生(夜間コース)5年目

■出身大学・学部

福岡大学・法学部

社会人経験あり

私はリハビリ等による勉強時間の短さ、ブランクによる不安(52歳で入学)から長期履修の夜間コースを選択しました。

夜間コースのメリットは①通常の半分のペースなので、一つ一つの教科にじっくり取り組むことができ②一日一授業で生活のリズムが作りやすい③少人数で活発に発言できるので、思考トレーニングをしながらその場で問題解決ができる点だと思います。

また、先生方は学習面、生活面も含め、相談事に細やかに対応してくださいますし、弁護士先生によるチューター制度やゼミもあり、充実した環境で勉強することができます。

私の1日のスケジュール

8:00	起床、新聞
9:00	リハビリ
12:00	昼食、家事
15:00	入浴、登校
17:00	自習(刑法の予習)
18:30	授業(刑法)
20:00	夕食
21:00	自習(刑法の復習と翌日の不法行為法の予習)
24:00	帰宅、リハビリ
2:00	就寝



司法試験関連・合格実績

司法試験合格者の声(令和3年合格)

久芳 かずさ

出身大学・学部 福岡大学法学部

社会人経験なし

福岡大学は学生同士の雰囲気と和やかで、分からないことがあっても、先生・先輩・同輩・後輩、誰に聞いても熱心に教えてくれたり、一緒に考えてくれたりします。法曹を目指すうえで勉強がつらく感じることもあるかもしれませんが、頑張ってください。



指山 隼治

出身大学・学部 福岡大学法学部

社会人経験なし

私が司法試験に合格することができたのは、十分な勉強時間と先生方のサポートがあったからだと思います。福岡大学法科大学院の自習室は、朝から夜遅くまで使用可能なので勉強時間を十分に確保することができます。自習室と同じ棟に研究室があるので、いつでも先生方のところへ質問に行くことができますし、先生方は、学生の個別の要望にも応えてくださいます。司法試験に合格したいのであれば、福岡大学法科大学院がおすすめです。



高松 蓮

出身大学・学部 広島修道大学法学部

社会人経験なし

私は爛れた大学生活を謳歌していたので、大学卒業までに教科書や六法等を開いたことはなく、法科大学院入学時点で法律の知識など微塵もありませんでした。また、私はいわゆる頭の良し人間ではありません。高校も中退しています。

もっとも、合格に必要なのは頭の良さでなく法的な思考力です。そして、これは地道に勉強を続けると必ず身につく力です。したがって、司法試験は必ず合格できる試験です。

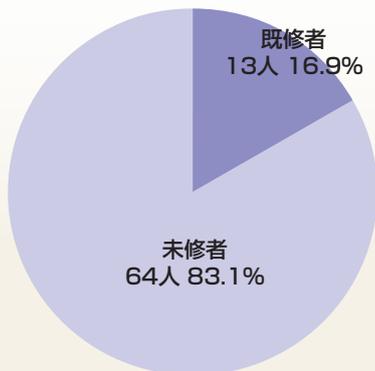
人間やれば意外とできるものです。あとはやるかやらないかなので、皆さんもやってみましょう。



司法試験合格実績

今までの司法試験合格者の内訳

法学未修者・法学既修者別



本法科大学院からは、多彩な人材を法曹界へ送り出しています。

出身大学別	出身学部別	社会経験の有無
福岡大学 24人	法学部 60人	社会人 27人
九州大学 14人	経済学部 3人	非社会人 50人
西南学院大学 5人	文学部 2人	
中央大学 5人	薬学部 2人	
北九州市立大学 4人	経営学部 1人	
熊本大学 4人	工学部 1人	
早稲田大学 2人	商学部 1人	
青山学院大学 1人	総合科学部 1人	
京都大学 1人	総合管理学部 1人	
熊本県立大学 1人	第三学群 1人	
慶應義塾大学 1人	発達科学部 1人	
神戸学院大学 1人	文化教育学部 1人	
神戸大学 1人	法文学部 1人	
佐賀大学 1人	理工学部 1人	
島根大学 1人		
首都大学東京 1人		
成蹊大学 1人		
創価大学 1人		
筑波大学 1人		
同志社大学 1人		
長崎大学 1人		
名古屋大学 1人		
日本大学 1人		
広島大学 1人		
広島修道大学 1人		
立命館大学 1人		

入試情報 学費・奨学金

入学者選抜日程・方法

詳細の情報は、令和5年度学生募集要項にて必ずご確認ください。

①募集人員 20人 未修者コース15人程度 既修者コース5人程度

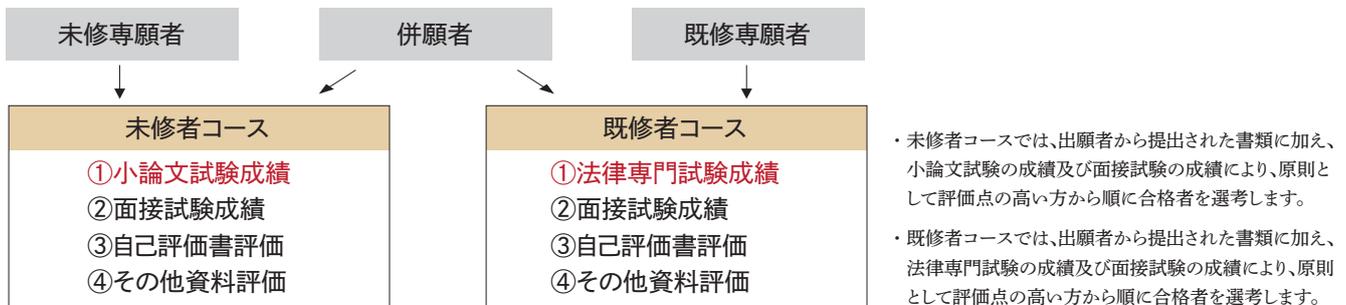
②試験日程

日程	出願期間	試験日	合格発表日
A日程	令和4年 6月13日(月) ~ 6月17日(金)	令和4年 7月 2日(土)	令和4年 7月 15日(金)
B日程	令和4年 9月20日(火) ~ 9月27日(火)	令和4年 10月15日(土)	令和4年 10月28日(金)
C日程	令和5年 1月11日(水) ~ 1月17日(火)	令和5年 2月 4日(土)	令和5年 2月24日(金)

※災害(台風、その他)等により試験が実施できない場合は、試験日を翌日に延期します。

③選抜方法

【A日程・B日程・C日程共通】 A日程・B日程・C日程をそれぞれ受験することが可能です。各日程の書類提出及び検定料の納入が必要となります。



併願制度について 各日程とも、既修者コースと未修者コースを併願することができます。なお、併願しても検定料は同じです。

※合否判定は、まず既修者コースについて行います。次に既修者コースを不合格となった方については、未修者コースの志願者として合否判定をします。

なお、未修者コースの合否判定に際しては、法律専門試験の成績は一切考慮されません。

特別選抜について

法曹コース制度開始に伴い、令和5年度から5年一貫型教育選抜方式*による特別選抜を実施します。5年一貫型教育選抜方式による特別選抜は、筆記試験を課さず、学部成績、面接試験によって選抜します。特別選抜の受験志望者は、別途、法科大学院事務室にお問い合わせください。

*本法科大学院と連携協定を締結している法曹コース(福岡大学法学部「法曹連携基礎クラス」)の修了見込かつ、早期卒業見込者のみ受験可能

④入学検定料 15,000円

入学者選抜の状況・結果

		令和4年度	令和3年度	令和2年度
志願者(人)	既修者コース	15	7	13
	未修者コース	44	24	26
	合計	59(うち併願11)	31(うち併願6)	39(うち併願9)
受験者(人)	既修者コース	14	7	12
	未修者コース	43	23	25
	合計	57	30	37
合格者(人)	既修者コース	1	0	0
	未修者コース	26	15	17
	合計	27	15	17
競争倍率(%)		2.11	2.00	2.18

令和4年度入学者選抜概況	
志願者	59人(法学既修者:15人 法学未修者:44人)
合格者	27人(法学既修者:1人 法学未修者:26人) ・平均年齢 27.3歳 ・男性 18人 女性 9人 ・社会人 9人 非社会人 18人 ・法学系 21人 非法学系 6人
入学者	16人(法学未修者:16人)



学費等納入金

入学金・授業料等		
入学金	本学学部卒業・本学大学院修了	55,000円
	他大学卒業・他大学院修了	110,000円
授業料	年額	600,000円
教育充実費	年額	120,000円
委託徴収金	年額	18,100円※

長期在学履修者(5年間)の学費等は、授業料および教育充実費の3年間分を5年間で納入します。

※年次等により金額は異なります。

奨学金制度

名称	種別	人数	奨学金の額	利子	返還期間	支給実績(人)		
						令和3年度	令和2年度	令和元年度
福岡大学	特待生奨学金	入学時:5人以内 入学2年次:3人以内 入学3年次:3人以内	年額 60万円 (授業料相当額)	-		6	5	8
	準特待生奨学金	入学時:5人以内 入学2年次:3人以内 入学3年次:3人以内	年額 30万円 (授業料半額相当額)	-		8	7	3
	高田法曹育成 基金奨学金	各年次:2人程度	年額 96万円 (月額8万円)	-		3	4	4
日本学生 支援機構	第一種奨学金	日本学生支援機構 からの内示による	月額 50,000円 又は 88,000円	無利子	最長 20年	8	14	14
	第二種奨学金	日本学生支援機構 からの内示による	月額 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	有利子	最長 20年	1	4	5

・特待生奨学金及び準特待生奨学金の入学2年次以降については、前年度の成績、GPA等の支給基準により該当者に支給します。既修者の特待生奨学金については、2人を限度として入学2年度においても給付されることがあります。(ただし、成績優良の場合)

・高田法曹育成基金奨学金は、福岡大学法学部を卒業して本法科大学院に入学し、成績が優秀と認められたものが対象となります。

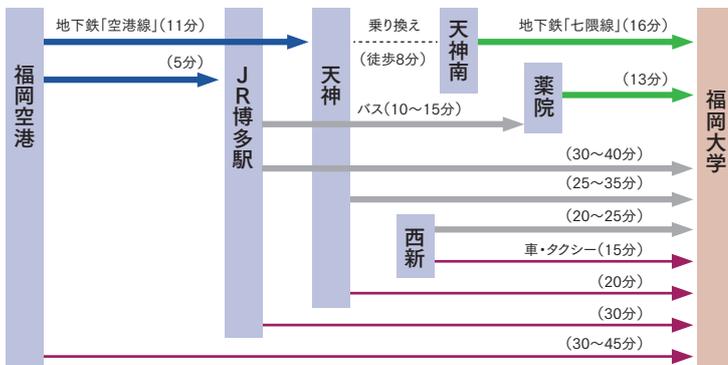
・上記の内容は、標準修業年限3年(既修者コースは修業年限2年)の場合の内容です。長期在学履修の場合には(夜間コース含む)、内容が異なります。



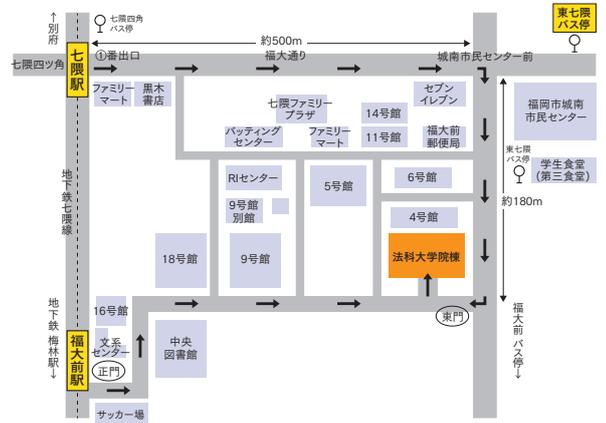
福岡大学アクセスマップ



大学へのアクセス方法



福岡大学法科大学院までの経路図



■ 本法科大学院までの所要時間

地下鉄七隈線／「七隈駅」(①番出口)からの所要時間：徒歩約8分 ※「福大前駅」よりも「七隈駅」からの経路が简单です。
 西鉄バス／16番・12番「東七隈バス停」からの所要時間：徒歩約2分 114番・140番「七隈四角バス停」からの所要時間：徒歩約10分



福岡大学法科大学院

INSTITUTE FOR LEGAL PRACTICE FUKUOKA UNIVERSITY

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

福岡大学法科大学院事務室

TEL ▶ 092-871-6631 (代表) FAX ▶ 092-865-7075

URL ▶ <https://www.ilp.fukuoka-u.ac.jp/>

E-mail ▶ houka@adm.fukuoka-u.ac.jp

